

本書『憲法ガール』は、平成18年から平成24年までの新司法試験公法系第1問を素材にしなが、憲法の事例問題の解き方を学べる小説です。本書は、もともと著者のブログ上で連載していた小説を、大幅に書き換えて出版したものです。

本書のメインターゲットは、「憲法の答案の書き方がわからない」というお悩みをお持ちの法学部生、ロースクール生ですが、各話の冒頭と最後のみを読んでストーリーだけを楽しむこともできますので、広く憲法に関心を有する一般の方も楽しめるものになっています。

従来、憲法の論証方法に関しては、小山剛『憲法上の権利』の作法 新版』（尚学社、2011年）、宍戸常寿『憲法 解釈論の応用と展開』（日本評論社、2011年）、木村草太『憲法の急所』（羽鳥書店、2011年）などの優れた著書が出版されてきました。これらの既存の著書と比べると、本書は、①ストーリー仕立てで楽しく憲法事例問題の解法を学ぶことができること、②憲法事例問題の最高の素材である新司法試験の過去問を取り扱っていること、③著者が全過去問の解答例を作成していること、④登場人物が会話の中で相互に主張・反論を行うため主張・反論形式に基づく憲法論をわかりやすく学習できること、という新たな特徴を有しています。また、⑤法務省が、毎年公表する「出題趣旨」、「採点実感等」、「ヒアリング」にできる限り即して試験問題を検討している、というのも本書の大きな特徴です。

さて、本書の内容を簡単に紹介すると、第0話で簡単な事例問題を素材にして憲法事例問題の解き方の基礎を解説した上で、第1話から第12話において平成23年から平成18年に遡りながら新司法試験の問題を検討しています。物

語最後の補話では、平成24年の問題を取り扱っています。第1話から第12話で時系列を遡りながら試験問題を検討しているのは、新しい問題のほうがとっつきやすいであろうと考えたためです。また、各話の末尾には、学習の手助けとするためにレミ先生のワンポイントアドバイスと解答例をつけています。もちろん、解答例は、あくまで一つの例に過ぎませんので、この点は十分ご留意下さい。なお、脚注及び本書最後の引用判例一覧表は、あくまで本書を読み解く上で必要最小限度のもので、本格的に勉強されたい方は各文献・判例の原文に直接あたって勉強をすることをお勧めします。

本書の使用法は、様々です。単に小説として読んでも良いでしょうし、新司法試験の憲法事例問題の解き方を学ぶために読んでも良いでしょう。ただ新司法試験を受験する予定のある方は、本書を読む前に試験問題を一通り解くことが望ましいでしょう。

読者の中には、本書の内容があまりに難しく愕然とし、本当に自分がこのレベルに達することができるのだろうかと思う人がいるかもしれません。しかし、何度も何度も本書を読み込めば、次第に登場人物たちの「声」があなたに浸透していくことでしょう。本書の登場人物の「声」が、あなたの答案作成を支援してくれる「導き手」になることを筆者は切に願います。